

作成日 2026 年 5 月 14 日
(最終更新日 20 年 月 日)

「情報公開文書」 (Web ページ掲載用)

受付番号： 2026-1-255

課題名：ヒト精神・神経疾患死後脳ミクログリアの多領域オミクス解析と、マウス病態モデルとの種間比較による性差を考慮した病態生理の解明

1. 研究の対象

NIAGADS (NG00105) に登録された、健常者および精神・神経疾患（大うつ病性障害、統合失調症、双極性障害、アルツハイマー病、進行性核上性麻痺）のヒト死後脳マイクログリア公開データを対象とします。

2. 研究期間

2026 年 6 月（研究実施許可日）～2030 年 3 月

3. 試料・情報の利用及び提供を開始する予定日

当機関で試料・情報の利用を開始する予定日及び外部への提供を開始する予定日は以下の通りです。

利用開始予定日： 2026 年 7 月 10 日

提供開始予定日： 該当なし

4. 研究目的

本研究は、うつ病、統合失調症、双極性障害などの精神疾患や、アルツハイマー病などの神経疾患において、脳の免疫細胞である「ミクログリア」がどのように関与しているかを調べることを目的としています。海外で公開されているヒト死後脳の遺伝子データと、マウスを用いた研究データを比較することで、精神疾患に共通する炎症反応や、男女による違いについて明らかにし、将来的な病態理解や治療法開発につながる知見を得ることを目指しています。

5. 研究方法

本研究では、海外の公開データベース（NIAGADS）に登録されているヒト死後脳の遺伝子データを用いて、脳の免疫細胞である「ミクログリア」の特徴を解析します。うつ病、統合失調症、双極性障害、アルツハイマー病などの疾患を持つ方と健常者のデータを比較し、どのような遺伝子変化がみられるかを調べます。また、年齢、性別、脳の部位などの影響についても検討します。さらに、男性と女性を分けた解析を行い、病気による影響に男女差があるかを調べます。加えて、脳の部位ごとの違いや加齢による変化についても解析します。また、当研究室で取得したストレス負荷マウスの遺伝子データと比較することで、ヒトとマウスで共通する炎症反応や遺伝子変化の有無を検討します。

本研究では、既に匿名化された公開データのみを使用し、新たな試料採取や治療、介入等はありません。

6. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：ヒト死後脳ミクログリアの遺伝子発現データ（RNA-Seq データ）、遺伝子型データ、診断名、年齢、性別、脳部位情報等

7. 外部への試料・情報の提供

該当なし

8. 研究組織

本学単独研究

9. 利益相反（企業等との利害関係）について

当機関では、研究責任者のグループが公正性を保つことを目的に、企業等との利害関係の開示を行っています。本研究は、公的研究費および運営費交付金等を用いて実施します。

外部との経済的な利害関係等によって、研究で必要とされる公正かつ適正な判断が損なわれる、または損なわれるのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態を「利益相反」と言います。

本研究に関して、現在開示すべき利益相反はありません。今後新たな利益相反が生じた場合には、所属機関の規定に従い適切に管理した上で研究を継続します。この研究の結果により特許権等が生じた場合は、その帰属先は研究機関及び研究者等になります。

10. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

当機関における照会先：

所属・氏名：東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野 俞 志前

住所：宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1

連絡先：022-717-7261

yu_zhiqian@tohoku.ac.jp

当機関の研究責任者：東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野 俞 志前

◆個人情報の開示等に関する手続

本研究では、既に匿名化された公開データのみを使用しており、研究者は研究対象者を特定できる個人情報を保有しません。そのため、本研究において個人情報の開示、訂正、利用停止等の請求には対応できません。